



発行日/2017年2月16日

編集・発行/堺市立健康福祉プラザ

視覚・聴覚障害者センター

聴覚障害者情報提供施設

〒590-0808 堺区旭ヶ丘中町4-3-1

Tel:072-275-5024 Fax:072-243-2222

Mail:mimi@sakai-kfp.info

みみよい

29

「あいさつ」

手話通訳派遣担当

坪井 順子

1月に入って、大学のセンター試験とともに、最大級の寒波が襲来。雪の影響で電車のダイヤが乱れました。私の自宅の方では、駅までの道が積雪で通行できず、あっちこっちでぶつかったり、途中で立ち往生したりする車が続出しました。

また、インフルエンザが流行し、センターでは開設以来初めて、半数近くの職員が次々と休みました。普段から、うがいと手洗いを徹底しているつもりだったのですが、足りていなかったことを反省しました。

さて、アメリカでは、新しい政権が動き始めました。堺市では、まもなく、コミュニケーション条例が施行されます。少しずつ、世の中が変わっていくのでしょうか。社会の動向を見つめる目を持ちながら、どのように支援や情報保障に結び付けていくのか。みんなと一緒に考えていきましょう。

みみサロンを開催しました

1月にちなんで、書き初め大会(習字)を楽しみました。講師は、教室も開いておられる玉置 美和子さんです。この

平成二十九年一月二十一日

みみサロン

書道講座

於堺市立健康福祉プラザ

玉置美和子

時期、参加者は申し込みより少し減りましたが、



9名の方に来ていただきました。板書もしながら、手話でわかりやすく教えていただきました。

書道の基本をはじめ、「歴史」の話の講義もありました。習字の「とめ」「はね」「点」などの基本が全部入っている「永」や、講師のオリジナルのお手本で少し練習し、すぐに本番に入りました。

講師の計らいで、今年のカレンダーを作ることができました。自分の好きな字や名前を入れた作品で、それぞれの性格や雰囲気うまく表現されていました。プレゼント付きということで、みなさんとても喜ばれました。いつもみみサロンの企画は講演がメインとなりますが、一年に一度は、聴覚障害のあるみなさんが持っている力を発揮できる場を作りたいと思っています。ぜひみなさんもお越しくださいね♪

実習生を受け入れました

1月6日から15日間、国立リハビリテーションセンター学院手話通訳学科2年生の田辺宮子さんが、聴覚障害者情報提供施設の業務を学びに来られました。

ご挨拶

無事にのべ15日間の実習を終えることが出来ました。プラザでは手話通訳者としての基本姿勢や技術など多くのことを学ばせていただきました。また堺市の聴覚障害者のみな様と交流することができ、実習で経験できたことを今後活かしてまいりたいと思います。ありがとうございました。

「聞こえるある 慣れない音は…編」

「音は十分に認識できない」と思われているるう者にも、音に関していろいろあるんです。

子どもがまだ小さく、運転中、少しでも落ちていくくれるようテレビをつないでいるわが家の車。いつもつけているのは教育テレビで、音声は常にオン。ある日、自分だけで運転中、窓をたたたく音が。昼間だったけれど、あちこち見ても全く人の姿が見えず、とても恐怖に。ふとテレビを見てみると、料理番組できゅうりをトントンと切る音。あーそれか！ビックリした!!

また仕事が終わって、道を歩いていると「ウーウー」「ジリジリ」と感じる音が。「パトカーか救急車がこの狭い道を走るのかしら?」と辺りを見渡すと、豆腐屋さんの移動販売。なあんだ!!

聞き慣れない音に振り回される日々です。

大丈夫ですか？ 災害への備え

○自分でできること・・・

自分の命は自分で守る、自分のことは自分で助ける・なんとかする。そのためには、事前の備えが必要です。緊急避難グッズや非常食を準備したり、家具の転倒防止対策をしたり。手の届く所に懐中電灯やスリッパ、笛を置いておくのも良いですね。ご家族がおられる方は、緊急時の連絡方法や集合場所も確認しておきましょう。電話で利用できる「災害伝言ダイヤル」、携帯電話で利用できる「災害伝言板」も活用してください。

○地域の方と・・・

みなさんは、お住まいの地域の防災訓練に参加されたことはありますか？ マンション、町内会、小学校区、いろいろな単位で防災訓練が実施されています。実際に災害が起こった時の安否確認や、ケガをした方の救護方法、消火などを体験できます。

災害が起こった時、まず頼りになるのは「ご近所さん」です。聞こえない・聞こえにくい方たちは、火災が起こったことにも気づきにくかったり、避難場所での情報が得られなかったりすることが多いですが、そんな時、ご近所の方たちと交流があれば、自宅に知らせに来てもらえたり、身ぶりや筆談で伝えてもらえたりします。また、聞こえない・聞こえにくい方々も、情報さえあれば「支援者」になることもできますね。

「この地域に聴覚障害者がいる」と知っていただき、一緒に防災の取り組みを進めていくためにも、ぜひ、訓練に参加しましょう！開催日は回覧板や掲示板でお知らせしています。地域の防災訓練に参加する際の手話通訳者・要約筆記者の派遣についてはご相談ください。

センターでは、地域の方と聴覚障害の方を結び合わせるための取り組みをしています。現在は、社会福祉協議会中区事務所のご協力を得て、中区の各校区福祉員会や民生児童委員会の方々と、防災についての意見交換をしています。

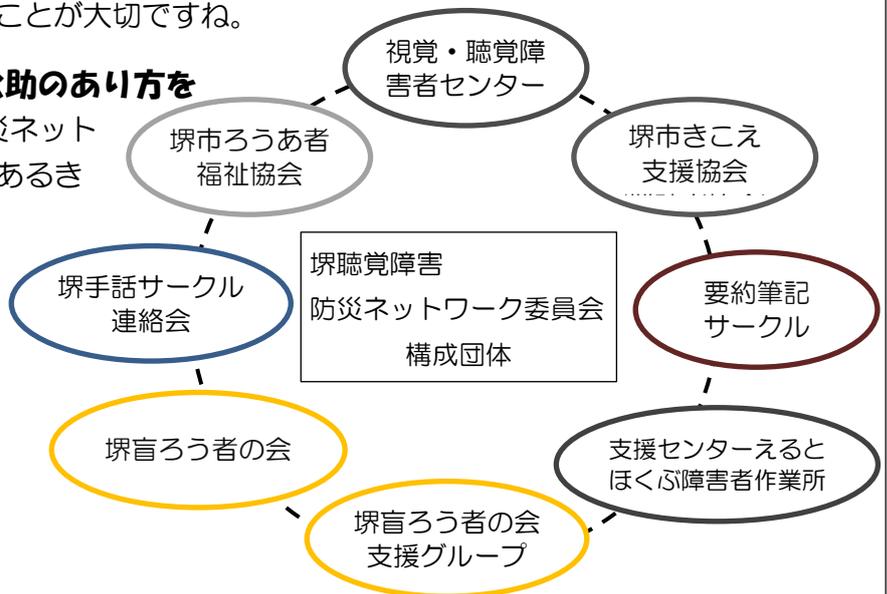
校区の「ふれあい喫茶」に参加されていたり、地域の方に手話の指導をされている聴覚障害の方もおられるようですが、「手話をされているのを見かけるんだけど、どこの方がわからない」というお声も。地域の方に顔と名前を覚えてもらうことが大切です。



○聴覚障害の方々と。そして、公助のあり方を

昨年立ち上げた「堺聴覚障害者防災ネットワーク委員会」でも、学習会や「まちあるき探検」などの取り組みをしています。センターもこの委員会に入り、関係団体と一緒に「聴覚障害の方に必要な準備」を検討しています。

災害が起こった時、必要な情報を必要な場所に届けるシステムをみなさんと一緒に作っていきたいと思います。



会話器：フェーストーカーを導入しました！

「障害者週間フェスティバル」でご紹介した「フェーストーカー」。このたびセンターで購入し、貸出機器としてご利用いただく準備を進めています。

フェーストーカーは、話し手の声を、聞き手のイヤホンにFM無線を使って伝える機器です。聴力の状態にもよりますが、利用者からは「聞き間違いや聞き返しが減った」というお声も。重度難聴の方は、補聴器の「Tコイル」を使うと聞き取りやすくなります。お試し希望の方は、センター窓口にお声かけください。



受信機



送信機



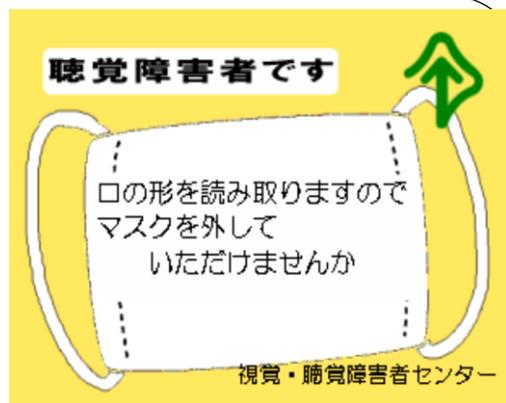
病院等で活用できるカードを作りました！

病院で看護師さんに「マスクを外してもらえますか？」とお願いしたけれど、外してもらえなかった…。

そんなご相談を受けて「マスクを外してくださいカード」を作りました。特に病院では、感染予防の観点から職員がマスクを着用しています。「外して」とは言いにくいものですが、理由がわかれば対応くださる方もあるかもしれませんね。センターでも医療機関への働きかけを始めています。

カードは区役所やセンターの窓口に置いてあります。

「命のカード」にはさんでご利用ください。



図書をいただきました！ 配架しています

補聴器メーカーのリオン株式会社さんより、「耳と補聴器のひみつ」というマンガをいただきました。お話の舞台は小学校。サトシとスズの担任のカザマ先生は熱心で、みんなに人気の先生。でも、ボクたちの話をよく聞き間違える。「ナイスボケ！」なんていう友達もいるけど、ちょっと違う気がする。もしかしたら耳が聞こえにくいのかな？

この本は、聞こえの仕組みや難聴・補聴器のことをわかりやすく解説しています。小学生を対象にした本ですが、補聴器のことを勉強したい方にもお勧め。ビデオライブラリーに置いてあります。ぜひご利用ください。

いろいろな場所に置いていただき、補聴器をしている方たちへの理解を広めたいと思っています。難聴の子どもさんが通っておられる学校や施設をご存知でしたら、情報をお寄せくださいね。



手話奉仕員・通訳者養成講座

手話奉仕員・通訳者養成講座

手話奉仕員養成講座は2月下旬から3月上旬にかけて、修了式を迎えます。修了後は手話レベルアップ講座や手話通訳者養成講座など、さらに上のクラスに挑戦していただきたいと思います。手話通訳者養成講座はまだ3月いっぱいありますが、寒い日が続きますので、体調にはお気を付けください。

要約筆記者養成講座

要約筆記者養成講座

講座は終わりましたが、要約筆記者として活躍するには、全国统一要約筆記者認定試験に合格する必要があります。

2月の試験に合格するために、自分の技術を磨きましょう。応援しています。がんばれ～！

センターの行事

2月25日(土) 10:30~11:30

「絵本の読み聞かせ」

2月25日(土) 14:00~16:00

「聞こえの相談会」 ※要申込
～聞こえの仕組みと難聴～

3月18日(土) 14:00~16:00

「みみサロン」 ※要申込
～救急法とAED～

毎週木曜日 12:30~12:45

ミニ手話講習会「手話っぴい」

おすすめビデオライブラリー



「ろうを生きる難聴を生きる “ご当地手話” を伝えたい」

福井ならではの手話を中心に、およそ3500語を編纂した手話集が、福井県越前市で刊行されました。まとめたのは、地元で手話通訳を務めてきた建築士の福島幸一さん。「地元の手話を残したい」という福島さんの思いと、ろう者をまじえて単語を確定する話し合いの様子を紹介します。

「ろうを生きる難聴を生きる 筆談が変わる」

10月下旬に三重で行われた全国中途失聴者・難聴者大会の分科会で、「UD手書き」と言われる会話支援機器の使いこなし方が紹介されました。UDとはユニバーサルデザインの意味で、タブレットやスマートフォンの画面に指で手書きできるというメモ用アプリです。大会の様態を伝えながら、筆談最新機器の機能をわかりやすく解説します。

新しい仲間をご紹介します!

1月から週2回(金・土)、アルバイトではいりました中辻 博子です。

なんで中辻が・・・? 本人の私が一番驚いています。人生って不思議なものです。

のんびりした私ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

・・・ということで、みなさまよろしくお願いいたします。

実施済

- 要約筆記者実技研修手書き 11/25
「利用者ニーズに合わせた書き分け」
- 要約筆記者実技研修 12/17 「要約筆記の技術と理念」
- 手話通訳者実技研修 (AB) 12/10・(CD) 12/24
- 平成29年度登録者説明会 3/25
- 頸肩腕予防研修:「こころもからだも健康に」
～ 椅子ヨガでケイワン予防 ～

事業年度	手話通訳		要約筆記		ライブラリー		
	個人	講演	個人	講演	利用者数	貸出数	
12月	258件	20件	7件	12件	40人	98本	
	263人	53人	15人	37人	新規登録者: 2人		
1月	派遣数	244件	17件	10件	6件	33人	88本
	派遣人数	253人	34人	18人	20人	新規登録者: 4人	

